

はばたき

これからの岩手の児童館の役割を考える特集号

habataki
第51号

発行日：2016年
（平成28年）
1月



主な内容

- ★【特集】専門委員会報告
（幹事・専門委員合同情報交換会）
- ★児童健全育成推進財団がメッセージを発信
～悩んでいる子へ「児童館にしてみよう」～

表紙の写真

「いわて子どもあそび隊」は
今年度も活動中！出会った子ども達は
みんな元気いっぱいです♪

（一財）児童健全育成推進財団がメッセージを発信 ～悩んでいる子へ「児童館にしてみよう」～

児童健全育成推進財団では、子どもの生存と発達を保障する児童福祉施設の観点から、自傷、自殺、虐待、犯罪の被害・加害等が危ぶまれる子どもたちへのメッセージ「児童館にしてみよう」を発信し、賛同する児童館による全国一斉行動として、周

知広報に協力を求めています。きっかけは、神奈川県鎌倉市図書館の公式ツイッターでの、同市の女性司書の「死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい」とのつぶやきについて、全国の健全育成関係者から、「これって児童館の役割だ

よね？」等の声が同財団に寄せられたことからです。このメッセージは、同財団ホームページの「2015.9.1付」されていますので、是非一度ご覧いただき、内容について一考いただきたいと思います。

児童館にしてみよう

い
居るところがなかったら、児童館にしてみよう。
や
ることがなかったら、児童館にしてみよう。
話
せる人がいなかったら、児童館にしてみよう。
わ
かってくる人がいなかったら、児童館にしてみよう。
が
まんできないほどしんどくなる前に、児童館にしてみよう。

児童館はここにあります。
http://www.kodomo-next.jp/jidoukans/search_map

平成27年9月1日
一般財団法人児童健全育成推進財団

1. メッセージ原文を周知広報してください。
(1) ホームページ(<http://www.jidoukan.or.jp/lets-go.html>)をリンクする。
(2) フェイスブックやツイッターでシェアする。
(3) チラシやポスターにして配布・掲示する。
2. 各児童館からオリジナルメッセージを発信してください。
このアクションは、多くの児童館に反応していただくことが重要であり、一人でも多くの子どもたちにメッセージが届くことが目的です。全国団体からのメッセージにも一定の意味はあると思いますが、児童館現場からの発信はより強いメッセージになります。その表現や文言は、趣旨がぶれなければご変わりませんので、次のような観点からご検討をお願いします。
(1) 命が危ぶまれる子どもへのメッセージ(自傷・自殺防止、虐待防止)
(2) 居場所なく地域をさまよう子どもへのメッセージ(犯罪の被害・加害防止、虐待防止)
(3) 生きづらい状況で苦悩する子どもへのメッセージ(いじめ防止、虐待防止)

【各児童館発信メッセージ文案】

児童館においてよ
い
るところがなかったら、児童館においてよ。
や
ることがなかったら、児童館においてよ。
話
はなせる人がいなかったら、児童館においてよ。
わ
かってくる人がいなかったら、児童館においてよ。
が
まんできなくなるほどしんどくなる前に、児童館においてよ。
〇〇児童館はここにあります。
[http://\(それぞれの児童館HP\)](http://(それぞれの児童館HP)) ※または略地図

児童館・児童クラブ関係者 モバイルサイト

いわて子どもあそび隊情報を中心に発信中!

パソコンからもご覧になれます。
<http://iwatejido.jugem.jp/>

ブログ
QRコード



連絡先
QRコード



コラム～編集後記にかえて～
子ども子育て支援に係るキーワードとして、「配慮を要する子ども」「貧困家庭」「虐待」「ひとり親」等が挙げられています。
10月に当協議会が開催した「配慮を要する～」をテーマとした研修会では、受講者の約7割の方々から、所属施設において該当児童等がいると、アンケートで回答がありました。
一方、県内の児童館等においては、人員配置の不足を課題のひとつとして捉えている施設が多く、そのような環境の中で、個別の支援を行うことが難しい状況にあるとの声も聞かれます。
児童館等において、課題を抱えた子どもはもろもろのこと、すべての子どもとその保護者にしっかりと向き合うためには、まずは職員の処遇・人員配置の改善等について、行政からより一層の手厚い支援が必要ではないでしょうか。
子ども子育て支援新制度がスタートした今、行政の確かな判断に期待したいところです。(事務局)

特集
専門委員会報告

これからの児童館・児童 クラブの役割を再確認 「幹事・専門委員合同情報交換会」を開催

(二財)児童健全育成推進財団事務局長 依田秀任氏より情勢報告



依田 秀任 氏

当協議会では、会務の執行機関である幹事会の他に、当会の事業や会員施設の活動課題等を協議する場として、専門委員会(館長等委員会及び児童厚生員等委員会)を置き、年2回程度開催しています。

今年度2回目となる今回の委員会は、「幹事・専門委員合同情報交換会」として平成27年12月1日(火)に開催し、(二財)児童健全育成推進財団の依田秀任事務局長より「情勢報告」をいただき、情報交換を行いました。

【情勢報告の概要】

児童館を取り巻く環境

「明るく話ばかりではない」

- ・市町村における予算がしっかりと確保されていない状況だからこそ、協議会組織の横の連携が重要。
- ・児童館関連の国の予算は一般財源化されており、なかなか現場に反映されない実情がある。
- ・児童館を廃止・転用して行かざるを得ないという判断をする自治体も出てきている。
- ・地域コミュニティが弱体化し、類似の事業が展開されるようになる中、児童館の必要性・あり方が問い返されている。

児童福祉の領域と責任

「児童福祉の領域」

- ・縄県)では、「孤食」になりがちな子どもたちに対して、毎週土曜日に地域の協力の下、食事を提供する取組を始めた。
- ・財団では、困難に直面している子どもの居場所として、児童館があることを知ってもらうために、メッセージを発信している。(詳細は4ページに掲載)

児童館の動向

- ・「ひとり親家庭・多子世帯等自立応援プロジェクト」……ひとり親家庭の子どもに食事提供・学習支援等を行う子どもの居場所づくり。↑児童館の本務本業を活かして取組むことができるものではないか。
- ・「あそびのプログラム等に関する専門委員会」の設置(社会保障審議会児童部会)……「こどもの城」閉鎖に伴い、その一部機能を継承し、遊びのプログラムの全国的な普及啓発、障がい児等を含めた新たなプログラム開発、地域の児童館等の果たすべき機能及び役割の検討等を行う。

- ・同専門委員会が全国の子ども約3・2万人に行ったアンケートで

- ・中高生への活動では職員のスキルが不十分。
- ・児童館の目的の限界、地域での位置づけの問題。
- ・悪しき成果主義・館長の職務・資質、児童厚生員の配置・専門性が不明確。
- ・児童館運営委員会の活性化。

子ども子育て支援新制度における児童館

- ・国における健全育成事業に係る特定の予算は全て廃止され、「地域子ども子育て支援事業(いわゆる13事業)」に切り替わったと解釈して良いと思う。
- ・13事業の中でも、既に児童館が取り組んでいる、また、取り組める事業(「利用者支援事業」)「子どもを守る地域ネットワーク機能強化



「遊ぶことが楽しくなった」「行事に積極的に参加するようになった」「困っている友達を助けたり、困っているときに友達が助けてくれるようになった」等の質問において、児童館利用頻度の多い児童の優位性が、データとして示された。保護者へのアンケートでも、同様の結果が示されている。児童館でも、「第三者評価」の受審が進んでいる。

アウトカム「エビデンス」

今、児童館に求められているのは、アウトカム(＝結果)と、エビデンス(＝根拠)に基づく活動!



【出席者の感想】(抜粋)

- 現場での疑問や不満に感じている点について多くのヒントをいただきました。できるだけ、現場で動きかけていきたいと思います。
- 色々な事業を展開するのを感じました。
- 改めて児童館の役割等を考えさせられました。「生活包括支援」ということで既に動きはありますが、児童館としてどのように関わっていけるか、職員で考える機会を設け、取組んでいきたいと思います。

県内の児童館・児童クラブ施設において、運営上の様々な課題を抱える中、子どもの健全育成に向けた多くの取組を推進していただいています。

今回出席された幹事・委員の皆様からの感想にもあるとおり、岩手における児童館・児童クラブのこれからの役割を改めて認識することができました。

当協議会としても、関係者の皆様からご意見をいただきながら、子どもたちを支える活動に係る課題の解決に向けて、組織としての役割を考えていきたいと思います。